

来年度（H27）の川部会活動方針

■テーマ① 生き物の棲みやすい川づくり：本川モデル

目標・運営方針から見る活動内容

目標：現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践しながら、将来のあるべき姿（絵）を描く。

運営方針：

「①生き物の移動阻害について」と「②微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について」を、まずは優先して取り組む。

WG時の意見交換/振り返りシートから見る活動提案

○久澄橋下流の瀬や白浜工区など生き物のすみかについて、矢作川漁協との意見交換を行いながら、継続して検討する。

○矢作川環境整備計画と連携して、保全エリアと利用重視エリアを考えていく必要がある。

○総合土砂管理検討委員会の情報共有と意見交換の継続が必要である。

○白浜工区で維持管理手法につながる実験的試みをすべき。（樹木管理/生き物のすみか/川遊び/防災）

○矢作川のあるべき姿をイメージ化して残していく。

《来年度の活動内容（例示）》

① 生き物の移動阻害について

- 支川合流点評価のカルテ（案）の作成・評価の実施
- 加茂川合流点の段差改善の検討

② 微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について

- 瀬淵・ワンド評価のカルテ（案）の作成・評価 / （仮）保全エリアマップの作成
- 白浜工区のモニタリング・川の微地形の把握（河床変動の技術的検討）
- 関係者（矢作川漁協等）との意見交換の継続
- 豊田市河川環境活性化プラン検討委員会との連携（情報共有・意見交換等）

③ 河床のアーマールコート化

- 総合土砂管理の先進地域の視察（小渋ダム、美和ダム等）
- 総合土砂管理検討委員会との情報共有の継続 / 土砂のあり方等の検討

④ 外来種・在来種の対策

- 外来種・在来種の最新動向の情報共有
- 駆除活動への参加 / 駆除方法の改善等の検討

⑤ 事業内容の情報共有

- 河川整備計画の勉強会の継続
- 事業内容の情報共有の継続・提案実施

来年度の活動方針（案）

- WGメンバーで加茂川合流点・家下川合流点における移動阻害の改善状況のモニタリングに取り組む。
- 微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について、WGメンバーで現地調査や関係者との意見交換、豊田市河川環境活性化プラン検討委員会との連携を進め、（仮）保全エリアマップを作成する。
- 低水路拡幅後の河道の応答状況を把握するため、定期的な目視による観測に加え、河床形状の測量を行うことにより、学識者を主体として白浜工区をモニタリングする。
- 総合土砂管理の知見を深めるためにWGメンバーで先進地域を視察し、総合土砂管理検討委員会との情報共有を継続する。

■テーマ① 生き物の棲みやすい川づくり：家下川（支川）モデル

運営方針から見る活動内容

目標：実施中の活動の取り組み効果を
確認し、将来のあるべき姿（絵）を
描くとともに、他の場所や他の支川
への展開方法を検討。

運営方針：

「①生き物の棲みかの不足につ
いて」を優先課題として、WGメンバ
ーで、矢作川水族館や家下川リバー
キーパーズ等の活動団体の活動に参
加しながら、検討に取り組む。

WG時の意見交換/振り返りシートから見る活動提案

- 承水溝－長池の段差改善や生き物の棲みかを確保する
承水溝の浚渫の提案を継続して検討する必要がある。
- 複数の管理者が関係することから、WGと関係者間が連
携して進める必要がある。
- 排水機場改修について、管理者からの情報提供が必要
である。
- 検討にあたっては、承水溝・長池・宗貞川付近の水位
の運動性、長池の底の状況を把握することが重要であ
る。

《来年度の活動内容（例示）》

- ① 生き物の移動阻害について
 - ・ 移動阻害箇所の情報収集の継続
 - ・ 排水機場の改修に伴う段差解消方法の検討
 - ・ 矢板切り欠き箇所のモニタリング
- ② 生き物の棲みかの不足について
 - ・ リバーキーパーズの活動効果の情報共有 / 他の場所への展開の検討
 - ・ 承水溝の浚渫に対する提案
- ③ 水量不足について
 - ・ 水源（家下川、農業用水、地下水など）の情報収集・現地調査
 - ・ ひょうたん池（長池）の水量確保の可能性検討

来年度の活動方針（案）

- 生き物の移動阻害について、管理者と連携して、**排水機場の改修に伴う段差解消方法の検討**を継
続する。（優先課題①）
- 生き物の棲みかの不足について、**承水溝の浚渫方法に対する提案**を具体化する。（優先課題②）
- 水量不足について、水源の情報収集・現地調査を実施し、新たな情報が得られた段階で、ひょう
たん池（長池）の水量確保の可能性の検討を進める。
- 矢作川の他支川での活動展開を検討する。

■テーマ② 地先の課題：地先モデル

目標・運営方針から見る活動内容

目標：関係機関調整の場の提供と（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討の進展

運営方針：

「河川空間利用に関する調整の場の提供」と「（仮）専門家リストの作成」を優先的に検討する。

各課題の情報共有と解決の方向性を検討する。

地先の活動団体等をリスト化し、情報共有の場を提供する。

WG時の意見交換/振り返りシートから見る活動提案

- 水質汚濁の問題は、行政と地域（活動団体）の連携が有効であることを確認。
- 活動場所をきれいに保つことが、マナー違反の抑止につながることを確認。
- 活動推進上の課題には、主に「活動費」「人材」「設備・機材」「行政のバックアップ」の課題がある。
- 活動団体と町会が連携することにより、「活動費」「人材」の課題解決が可能。
- （仮）専門家リストのたたき台を作成したところであるが、更なる情報提供を依頼し、リストの充実が必要。
- WGに出てもらえるよう、活動団体への積極的な働きかけが必要。

《来年度の活動内容（例示）》

① 活動環境に関する課題について

- 活動団体へのヒアリングの継続（地先の課題の抽出）
- 公開ヒアリング（仮称）の実施
（流域圏懇談会の活動に参加していない活動団体に積極的にアプローチする機会として。）
- 活動団体MAPの作成（川に関わる活動団体の把握）
- 個別課題の情報共有 / 個別課題の解決の方向性の検討

② 活動推進上の課題について

- （仮）専門家リストの充実・試行運用
- 河川空間利用の調整（関係機関、市民意見の反映）の場の提供

来年度の活動方針（案）

- 協力いただける**活動団体へのヒアリング**（公開ヒアリング（仮称）の実施）を継続しながら、**個別課題の解決の方向性を検討**する。
（事業実施に関わる地域の活動団体を対象とすることも考えられる。）
- ヒアリング・アンケート等を活用して、**活動団体MAPを作成**する。
- WGメンバーからの情報提供により、**（仮）専門家リストの充実・改良**を図り、まずはWGメンバーで**共有**する。

■川部会の活動運営に向けて

《来年度の活動運営の考え方》

- ① できるだけ多くの人に参加してもらうため、川部会メンバーが参加したい活動を中心とし、川部会メンバーの主体的な参画に基づき、活動を実施します。

(来年度第1回WGまでに、皆さんの要望を確認し、活動の方向性を決定します。)

- ② 活動は概ね月1回程度を想定する。各モデルの開催頻度（全8回とした場合）は以下のとおり。
本川モデル：3回　家下川モデル：2回　地先モデル：2回　とりまとめ：1回
- ③ 活動日は、参加しやすさに配慮し、平日開催だけでなく、土日祝日開催も視野に調整します。
- ④ 川部会メンバーから提案があり、川部会WGで検討すべき内容として認識された課題については、3モデルの対象区間にとらわれず、検討を行うこととする。